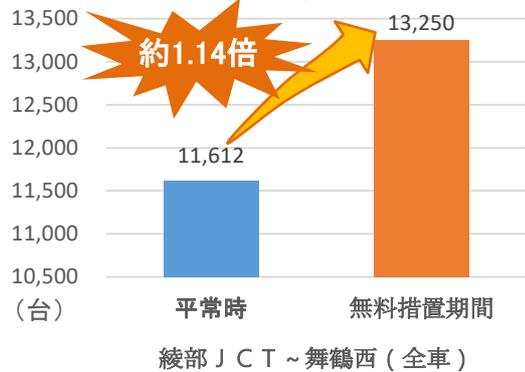


道路機能強化による信頼性の向上

- 平成30年7月豪雨により、周辺一般道路において大規模災害による長期間の通行止めが発生したが、その際、舞鶴若狭道が代替路として機能しました。
- 平成30年6月の大阪北部地震において名神高速や中国道等の通行止めが発生した際、舞鶴若狭道は広域的な回路として機能しました。
- 舞鶴若狭道が4車線化されることで、道路の機能強化が図られ、信頼性が向上し、災害発生時などにおける早期の交通確保が期待されます。

●周辺一般道の大規模被災時における地域内代替路としての活用



○平成30年7月豪雨
平成30年7月7日
国道27号(舞鶴市真倉地先 延長0.2km)においてのり面崩壊により全面通行止め
7月8日22:00～
舞若道・京都縦貫道(綾部IC～舞鶴西IC、綾部安国寺IC～舞鶴西IC)の代替路措置を実施。

●大阪北部地震時の広域迂回



平成30年6月の大阪北部地震において舞鶴若狭道は通行止めとならずに広域迂回路として機能しました。



○大阪北部地震
発生日:平成30年6月18日(月)
震源:大阪府北部 深さ13km M6.1(最大震度6弱)
通行止め時間:8:21～13:00 (延べ4時間39分)